



伝統芸能の祭典

新・秋田の行事「花火のまち」に秋田の伝統芸能が大集結

in 大仙2017

会場行き無料シャトルバス運行情報

約20分間隔で運行します。

市民会館シャトル(乗車時間: 約10分)

大曲市民会館	14日 ^土 始発9:30 / 最終17:30 15日 ^日 始発9:30 / 最終17:30
ヒカリオ前	14日 ^土 始発9:40 / 最終17:40 15日 ^日 始発9:40 / 最終17:40

ふれあい文化シャトル(乗車時間: 約10分)

仙北ふれあい文化センター	14日 ^土 始発9:30 / 最終17:50 15日 ^日 始発9:30 / 最終17:10
福田町駐車場	
大曲駅東口	14日 ^土 始発9:40 / 最終20:30 15日 ^日 始発9:40 / 最終18:50

ACCESS ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。(駐車場は8:30から開場します。)



14日^土・15日^日
 車両通行禁止区域
 ■ 8:00~18:00 花火通り商店街
 ■ 11:00~18:00 中通会場

14日^土
 車両通行禁止区域
 ■ 16:00~20:00 堤防道路・技術専門学校~入場入口①
 ■ 17:00~20:00 浜町交差点~技術専門学校・堤防道路・西根コンビニ~花火大橋~金谷交差点
 ■ 17:00~20:00 【大型車両通行禁止】 グランドパレス川端~姫神橋~蛭川交差点

お問い合わせ
 実行委員会事務局
 秋田県 文化振興課
 TEL.018-860-1530
 大仙市 観光交流課
 TEL.0187-63-1111 (代表)



伝統芸能の祭典

新・秋田の行事

in 大仙2017

秋田の伝統芸能と大曲の花火
 この秋、大仙に大集結!!



10/14^土 15日^日 会場 大曲駅前・花火通り商店街周辺
 大曲市民会館 秋田県大仙市 大曲日の出町2丁目6-50

最新情報はwebサイトで随時更新中! <https://www.shinakitanogyoji.jp>

主催 新・秋田の行事実行委員会
 秋田県、大仙市

同時開催 大曲の花火 秋の章



平成29年度文化庁
 文化芸術創造活用
 プラットフォーム形成事業

beyond 2020





SCHEDULE ※都合により出演者・演目・時間などが変更になる場合があります。

大曲駅前・花火通り商店街周辺 (①中通会場・②花火通り商店街)

大曲駅前・花火通り商店街周辺 (①中通会場・②花火通り商店街)

14日(土) 10時～17時		15日(日) 10時～18時	
① 中通会場	●刈和野の大綱引き(大仙市) 11:30～11:55 ※ミニ綱による再現 ●大曲農業高校仮装行列パフォーマンス 12:00～12:45 ●大曲太鼓道場(大仙市) 12:50～13:00 ●開会宣言 13:00～ ●「山・鉾・屋台行事」の共演 13:30～15:30 角館祭りのやま行事(仙北市) 土崎神明社祭の曳山行事(秋田市) 花輪祭の屋台行事(鹿角市) ●秋田の竿燈(秋田市) 15:40～16:00 ●「山・鉾・屋台行事」16:00～	●男鹿なまはげ太鼓(男鹿市) 11:30～11:50 ●盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市) 12:00～12:15 ●「山・鉾・屋台行事」の共演 13:30～15:30 角館祭りのやま行事(仙北市) 土崎神明社祭の曳山行事(秋田市) 花輪祭の屋台行事(鹿角市) ●秋田の竿燈(秋田市) 15:40～16:00 ●「山・鉾・屋台行事」16:00～	
	●大仙グルメストリート 10:00～16:00 ●秋田うまいものスクエア 10:00～17:00 ●ふれあい体験ブース 10:00～16:30 ・刈和野の大綱引き「綱作り体験」 ・花火講座「花火鑑賞士による花火セミナー」 ●石川駒踊り(八峰町) 11:00～11:15 ●長野ささら(大仙市) 13:40～14:00 ●羽立大神楽(能代市) 14:20～14:40	●大仙グルメストリート 10:00～16:00 ●秋田うまいものスクエア 10:00～17:00 ●ふれあい体験ブース 10:00～16:00 六郷のカマクラ行事「天筆書き体験」 ●横沢ささら(大仙市) 11:00～11:20 ●盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市) 13:40～13:55 ●願人踊(八郎潟町) 14:20～14:40	
大曲の花火 秋の章 開場16:30～ 打ち上げ18:00～ 会場: 大曲花火大橋下流河川敷		新・秋田の行事 特別花火 17:50～18:00 会場: 丸子橋付近	

③大曲市民会館 (兩日9:00開場) 当日券1,500円(税込)

③大曲市民会館 (兩日9:00開場) 当日券1,500円(税込)

14日(土) 10時～17時	15日(日) 10時～18時
●開会セレモニー／大曲高校書道部(大仙市) 10:00～10:25	●大曲農業高校太田分校郷土芸能部(大仙市) 10:00～10:25
●高梨神社正神楽(大仙市) 10:30～10:55	●仙道番楽(羽後町) 10:30～10:55
●長野ささら(大仙市) 11:00～11:25	●タイ王国民族舞踊(タイ王国) 11:00～11:20
●羽立大神楽(能代市) 11:30～11:50	●角間川盆踊り(大仙市) 11:30～11:50
●鳥海山小滝番楽(にかほ市) 12:00～12:25	●願人踊(八郎潟町) 12:00～12:20
●根子番楽(北秋田市) 13:30～13:55	●屋敷番楽(由利本荘市) 13:30～13:50
●関口作佐楽舞(湯沢市) 14:10～14:20	●横沢ささら(大仙市) 14:00～14:20
●毛馬内の盆踊(鹿角市) 14:30～14:50	●横手ばやし(横手市) 14:30～14:50
●石川駒踊り(八峰町) 15:00～15:20	●本海獅子舞番楽(由利本荘市) 15:00～15:25
●盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市) 15:30～15:45	●西馬音内の盆踊(羽後町) 15:30～16:00

ふれあい体験ブース（花火庵）無料ふれあい体験ブース（花火庵）無料

刈和野の大綱引き 「綱作り体験」	花火講座 「花火鑑賞士による花火セミナー」	六郷のカマクラ行事 「天筆書き体験」
●体験時間：10月14日（土） ①10：00～10：40 ②13：30～14：10 ※体験時間目安は10分程度です。	●体験時間：10月14日（土） ①15：00～15：30 ②16：00～16：30 ●参加定員：各回30名程度（先着順）	●体験時間：10月15日（日） 10：00～16：00 ※天筆が無くなり次第終了します。 ●参加定員：100名（先着順）

角館祭りのやま行事 (仙北市)

かくのだてまつりのやまぎょうじ

会場①



毎年9月7日から9日まで角館総鎮守神明社と成就院薬師堂の祭典に合わせて行われるお祭りで18丁内から出される武者人形や歌舞伎人形を飾った大型のヤマを曳き回します。

曳山には「おやま囃子」の囃子方が乗り、囃子に合わせて「手踊り」が舞われます。祭典期間中、引き回すヤマの道筋が決まっておらず、狭い道路でヤマ同士が鉢合わせとなり、その都度通行の優先権を巡り交渉が行われます。交渉が決裂すると祭りのクライマックスである「やまぶっつけ」が行われます。

花輪祭の屋台行事 (鹿角市)

はなわまつりのやたいぎょうじ

会場①



花輪祭の屋台行事(花輪ばやし)は、幸稲荷(さきわいいなり)神社と花輪神明社の合同例大祭において、10町内から出される本金箔・総漆塗りの豪華絢爛な屋台が地区内を巡行する行事です。

屋台は前部に床のない「腰抜け」と呼ばれる形式で、屋台に乗り込んだ太鼓の叩き手は歩きながら囃子を演奏します。囃子がいつ頃から奉納されるようになったかは定かではありませんが、伝承されている曲のいくつかは江戸時代前期以前の古い時代から伝えられてきたといわれています。

刈和野の大綱引き (大仙市)

かりわのおおつなひき

会場①



刈和野の大綱引きはおよそ500余年前、室町時代から始まったといわれ、「市神」様の祭事として綱引きが始められたのが由来といわれます。

大綱引きは毎年2月10日に刈和野の大町通りで町を二分して行われます。二日町では「雄綱」を作りその先端を「ケン」と呼び、五日町では「雌綱」を作りその先端を「サバグチ」と呼びます。2つの大綱は七巻きに積み7日間飾られ綱引き当日に浮島神社に祀られる「市神」様を奉戴します。今回は刈和野の大綱引きをミニ綱で再現します。

願人踊 (八郎潟町)

がんにんおどり

会場②・③



願人踊は伊勢、熊野信仰普及のため村回りの芸人となり、日本各地に唄や踊りを広めた願人坊主が伝えたものです。八郎潟町には今から300年程前の江戸時代中頃に伝えられたと言われています。

毎年5月5日の一日市神社の例大祭の日に行われ、豊年満作、五穀豊穡を祈願して各家々の玄関先や庭先で踊りを演ずる門付芸能です。唄や踊りは伊勢音頭の流れを汲み、踊りの合間に歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」五段目「山崎街道」の一場面を演ずることが特徴です。

土崎神明社祭の曳山行事 (秋田市)

つちざきしんめいしゃさいのひきやまぎょうじ

会場①



土崎神明社祭の曳山行事は、7月20日～21日に武者人形で飾り付けた曳山が練り歩く神明社の例祭で「土崎港曳山まつり」の愛称で親しまれています。

20日の宵祭は曳山が各町内から土崎神明社へ奉納され、翌日の本祭には町の南側の御旅所から神輿とともに北の御旅所に向かう御幸曳山と、夜、あいや節を奏でながら町内に戻る戻り曳山が巡行され、祭りは最高潮へと達します。

秋田の竿燈 (秋田市)

あきたのかんどう

会場①



秋田の竿燈は、8月3日～6日までの4日間、秋田市の竿燈大通りを中心に開催されます。

ねぶり流しと呼ばれる睡魔払いの七夕行事が、米の豊作を祈る庶民の願いなどと結びつき、形を変えながら発展したものと考えられています。

勇壮な竿燈ばやしと「どっこいしょ」の掛け声に合わせて長さ約14mの親竹にゆわえた9段の横竹に、合計46個の提灯をつるした竿燈をあげる熟練の差し手の妙技が見どころです。

長野ささら (大仙市)

ながのささら

会場②・③



長野ささらは、慶長7年(1602年)佐竹公が秋田にお国替えの時に士気を鼓舞し、路上のけがれを打ち払うため先頭に三頭の獅子をおいた道払いの舞です。後に水戸の舞人達が大仙市長野地区に住み着き、悪霊を鎮め祖霊を祝するための盆行事として伝えてきたものとされています。また、獅子舞の舞も品格が高くなり装束も立派になったと伝えられています。

黒角の雄獅子と赤角の雌獅子、青角の中立ち、笛吹、謡上げなどで一組になっており、その後ろに行列が続きます。

羽立大神楽 (能代市)

はだちだいかくら

会場②・③



羽立大神楽は、その昔一人の至芸に達した芸人がこの里を訪れたことから始まったと伝えられています。

全ての舞を三角形に舞って進むのが特徴で、7月24日に愛宕神社の祭典で、8月13日には集落の墓地の前と集落の中央で舞われます。祭典の日、神社に参入するときに獅子は「天の舞」を舞って鳥居を潜り、社殿まで駆け登り悪魔払いをし、囃子を変えて「流しの舞」を舞いながら神輿の行列を先導して巡幸します。獅子は赤・白・黒のだんだら模様で、七の段、終段等の舞もあります。

盛岡さんさ踊り (岩手県盛岡市)

もりおかさんさおどり

会場①・②・③



盛岡さんさ踊りの由来は岩手県の名の由来とも深く結びついてます。その昔、南部盛岡城下に「らせつき」という鬼が現れ、困り果てた里人たちは三ツ石神社の神様に鬼退治を祈願しました。

神様はその願いを聞き入れて鬼を捕らえ、二度と悪さをしないように誓いの証として境内の大きな岩に鬼の手形を押させました。これが岩手県の名の由来だと言われ、石の周りをさんささんさと喜んで踊り回ったのが「さんさ踊り」の始まりです。

毎年8月1日から4日まで、盛岡市中央通をメイン会場に行われます。

石川駒踊り (八峰町)

いしかわこまおどり

会場②・③



石川地域で古くから伝わる石川駒踊りと奴踊りは、400年の歴史を誇る八峰町の無形民俗文化財です。由来は慶長7年(1602年)に、佐竹義宣が常陸から出羽の国へ国替えとなった時、道中で主君の旅情を慰めるために家臣たちが演じたことが始まりとされています。

駒は6～10頭の編成になっており、馬の頭をつけて馬にまたがったように見えます。踊りは戦国武将が合戦する場面を表し、県内でも有数の勇み駒と呼ばれています。また、奴踊りは駒踊りの前に踊られ、駒の露払いともいわれています。

大曲太鼓道場 (大仙市)

おおまがりたいこうじょう

会場①



大曲太鼓道場は、花火の街大曲を中心に活動しています。園児から社会人まで幅広い年齢層のメンバーが集まり、共に汗を流しながら日々練習に励んでいます。

小さな頃から、夜空に打ち上がる大輪の華と尺玉の力強い音を聴いて育った私達は、同じく力強い音が魅力である和太鼓と出会い、地元大曲の誇りである「大曲の花火」を和太鼓で表現したいという想いのもと、花火をモチーフとした曲を中心に演奏を行っています。

横沢ささら (大仙市)

よこざわささら

会場②・③



ささら舞は、徳川の初期佐竹氏が常陸国より秋田へ移封のとき、一行の災難を打ち払いながら、先行きを務めたものが発祥とされています。

横沢ささらは巻物三巻を伝えており、その最も古いものに万治元年(1658年)の記年があり、350年以上前から伝承されています。往時より横沢ささらは、横沢部落鎮守八幡神社に所属しており、神仏の供養や地域の安泰と悪疫の退散、五穀豊穡を祈るため演舞され、現在でも地蔵尊祀り、盆供養、神社祭典奉納と3回の演舞を年中行事としています。

男鹿なまはげ太鼓 (男鹿市)

おがなまはげだいこ

会場①



「男鹿なまはげ太鼓」は、男鹿市各地で大晦日に行われる伝統行事「男鹿のナマハゲ」に和太鼓を取り入れて創作された郷土芸能です。「NAMAHAGE郷神楽」は、郷土への強いこだわりを持った熱いライブパフォーマンスが特徴です。

幅広い年齢層にファンを持ちながら、性別・国境・ジャンルを越えた“規格外”のパフォーマンスで、現在も世界中を疾走し続けています。

大曲の花火 秋の章

「花火劇場 ～あき[㊤]満開～」

●開場／16:30～ ●打ち上げ／18:00～
●会場／大曲花火大橋下流河川敷
(全国花火競技大会が開催される雄物川河畔)
●お問い合わせ／大曲商工会議所花火振興事業部
TEL.0187-62-1262

秋田銀行

〈あきぎん〉は新・秋田の行事を応援いたします。



秋田県新聞

西馬音内の盆踊 (羽後町)

にしもないのぼんおどり

会場③



羽後町西馬音内に伝わる国の重要無形民俗文化財「西馬音内の盆踊」は、約700年前に源親という修行僧によってもたらされた豊年祈願の踊りが、慶長6年（1601年）西馬音内城主小野寺一族が滅び遺臣たちが主君を偲んで捧げた盆供養の踊りと合流・融合し今の姿になったと伝えられ、毎年8月16日から18日まで行われます。

深くかぶった網笠に艶やかな端縫い衣装、亡者を思わせる彦三頭巾に藍染の踊り浴衣の老若男女が、かがり火の列を挟んで行き交うように踊ります。

根子番楽 (北秋田市)

ねっこばんがく

会場③



根子番楽は、源氏の遺臣(いしん)または平家の落人たちが伝えたものとの言い伝えがあり、現在の伝承に至っています。歌詞の内容が文学的に優れていることと、舞の形式が能楽の先駆をなす幸若舞(こうわかまい)以前のものであるという大きな二つの特徴があります。

舞はテンポの速いリズムカルなお囃子にあわせて舞う武士舞と古雅で静かなリズムの古典的な舞に大別されます。東北地方に伝承されている修験系の神楽(山伏神楽)の中でも、特に歌詞や芸能の伝承が確実なものといわれています。

仙道番楽 (羽後町)

せんどうばんがく

会場③



仙道番楽は慶長年間（1596～1615年）に、京都から落ちてきた修験者が現在の上仙道に宝永山を開いて山伏神楽を普及したとする説と、約400年前に西鳥海山にこもった山伏行者が山麓の村々で獅子舞・神楽舞を演じたものが村人に伝わったとする二つの説があります。4月中旬の「幕開き」に始まり、村内各神社の祭典、豊年祭、新築の根固め、慰霊祭等で演じられ、雪が舞い始める頃に行われる「幕納め」で終わります。演目は、御獅子之舞、御上旨之舞、道化三番叟、鶏舞ほか12種類があります。

毛馬内の盆踊 (鹿角市)

けまないのぼんおどり

会場③



秋田県三大盆踊りの一つ、毛馬内の盆踊は、太太鼓と横笛のはやしで踊る「大の坂」と無伴奏の唄のみで踊る「甚句」と、「じょんから」で構成されています。「大の坂」は京都の念仏踊りの流れをくむと言われ、「甚句」は南部領だった450年前に戦いから帰った将兵たちをねぎらったのが始まりとされています。

かがり火を囲み、少しずつ移動する輪踊りで、常に内側を向いてゆったりとしたテンポで優雅に踊り、踊り手は男女とも豆絞りの手拭いで頬被りをし、きらびやかな帯で踊る衣装が特徴です。

本海獅子舞番楽 (由利本荘市)

ほんかいししまいばんがく

会場③



江戸時代の初期、寛永年間（1624～1645年）に京都醍醐寺三宝院に属する修験者本海行人が旧鳥海町と旧矢島町の各村々に獅子舞を伝授したといわれています。修験的な行事を取り入れた獅子舞と番楽と称する48番の芸能を総称し、本海獅子舞番楽と呼んでいます。

鳥海山に対する信仰を背景に13地区で伝承され、特に獅子舞を重視しており他の獅子舞と比較しても舞の動作が激しく、また、歯打ちを何度も繰り返します。

屋敷番楽 (由利本荘市)

やしきばんがく

会場③



屋敷番楽は、天明3年（1783年）大きな飢饉に襲われ亡くなる人が続出した際、集落の人々が京都の三宝院に属する修験者である本海行人の伝えた獅子舞(本海番楽)を習得し、五穀豊穡と悪疫退散を願ったのが始まりとされています。

拍子は5拍子で、現在伝承されている舞は神舞、獅子舞、志賀団七、鳥舞、矢島小弓など20演目あり、中でも「志賀団七」は歌舞伎の「碁太平記白石噺」からヒントを得て作ったものといわれ、本海番楽や他郡市でも数少ない演目です。

鳥海山小滝番楽 (にかほ市)

ちようかいさんこたきばんがく

会場③



日本海からそびえ立つ鳥海山の麓小滝集落には、鳥海山の山岳信仰による修験者によって伝えられた「鳥海山小滝番楽」が伝承されています。

この舞で使用しているお面は、万治2年（1659年）に造られたもので、それまで使用されてきたお面が壊れたことからこれを造ったとあり、少なくとも500年以前に遡るものと推測されます。現在15演目が舞われており、30名ほどがその伝承に取り組んでいます。

角間川盆踊り (大仙市)

かくまがわぼんおどり

会場③



角間川盆踊りは、藩政期から雄物川の舟運の基地として栄え、角間川舟着場に来て定住した豪族により伝えられたといわれています。大会当日は、囃子方はやくらの上で演奏し、踊り手は編み笠に浴衣でかがり火を中心に円陣を作り踊ります。

踊りは、手拍子からはじまり、踊りの途中で360度回転する所作が特徴となっています。お囃子、踊りが優雅であり踊り手の差す手や引く手には上品で風流さが漂っている踊りです。

関口作佐楽舞 (湯沢市)

せきぐちささらまい

会場③



関口作佐楽舞は湯沢市三関地区関口に伝わる伝統芸能です。桓武天皇の御代、坂上田村麻呂が悪路王退治で東鳥海山に薬師仏を祀る権現堂を建立し、最上左沢で見たという麒麟の像を造り奉納しました。それにより悪路王征伐を成し遂げ、祈願達成奉祝の舞として麒麟の頭をつけて舞うこととなったのが起源と伝えられています。

舞手として中獅子1頭、雄獅子と雌獅子がそれぞれ2頭の5頭立が特徴であり上半身に付けた小太鼓を一枚の幕で覆い、優雅な舞、激しい舞、穏やかな舞を演じます。

タイ王国民族舞踊 (タイ王国)

たいおうこくみんぞくぶよう

会場③



古代インドの大長編叙事詩で、ヒンドゥー教の聖典の1つである「ラーマヤナ」をバンコククリスチャンカレッジの生徒が演じます。ラーマ王子が誘拐された妻シーターを奪還すべく大軍を率いてラークシャサの王ラーヴァナに挑む姿を描いた物語です。

「ラーマヤナ」は、古くからインド文化を取り入れてきた東南アジア全体に深く浸透しており、タイの小学校では「ラーマヤナ」の古典舞踊の授業は必須となっています。

横手ばやし (横手市)

よこてばやし

会場③



横手ばやしは、毎年8月に横手の送り盆行事で行われている祭り囃子です。もとは周辺農村で行われていたサイサイ囃子が定着したものといわれています。

現在行われている横手ばやしには、寄せ・そそろこ・甚句・おぼこ・おいとこ・道中・拳ばやしがあり、これらは総じてサイサイ囃子と呼ばれ、太鼓を据えた屋根付きの小さな移動屋台を中心として、屋形舟に付き添いながら笛と鉦も移動して演じられていきます。

高梨神社正神楽 (大仙市)

たかなしじんじやしょうかくら

会場③



高梨神社は、国指定払田柵跡内にあり、旧高梨村を構成した5か所の神社を合祀して大正5年（1916年）に創建された神社です。

昭和の初め頃、近隣の神職の間で伝承されていた正神楽を高梨神社祭式の内に編成し、献饌撒饌(けんせんてっせん)を略して代替としたものです。仙北地方に伝承されている正神楽の多くは、保呂羽山神社の霜月神楽の系統を引くもので、高梨神社の正神楽も同様です。毎年8月20日の例大祭に執り行われ、構成は五調子の舞・扇の舞・三剣五所の舞などからなっています。

大曲農業高校太田分校郷土芸能部 (大仙市)

おおまがりのうぎょうこうこうおおたぶんこうきょうどけいのうぶ

会場③



創部は30年以上前で、現在は部員13名で活動しており、全員が郷土芸能初心者です。主な活動は地域のイベント、福祉施設、学校行事、秋田県高等学校郷土芸能・日本音楽合同発表会など、年間15回以上の舞台発表を通して、地域に親しまれています。

演目は「秋田の民謡」や「昔の農作業の演技」、「飾山囃子」を中心としています。また、数年前から「横沢ささら」を取り入れ、地元太田を中心に活動しています。

北都銀行

株式会社ヌウジャパン

イベントのことなら

Ys ワイズ 株式会社

〈ご来場アンケートのお願い〉

新・秋田の行事 in 大仙2017にお越しいただいた皆様に、アンケートのご協力をお願いいたします。

アンケート用紙は会場内の案内所で配布しております。ご記入後、案内所の回収ボックスかお近くのスタッフにお渡しください。

アンケートにお答えいただいた方の中から
抽選で4名様に「大仙市うめもの商品」をプレゼント！
※抽選結果は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

アンケートはホームページか、
こちらのQRコードからもご記入いただけます。
<https://goo.gl/forms/hYpfEh4tJW8e1Sg62>